

巨人1位 堀田（青森高）侍J目標

ヤクルト6位 武岡（光星高）安堵の涙

プロ野球ドラフト

県内で共に成長、飛躍誓う

青森県内で3年間野球に打ち込んだ高校球児が、プロ入りの夢をつかんだ。17日のプロ野球ドラフト会議で、堀田賢慎投手（青森山田高）が巨人、武岡龍世内野手（八学光星高）はヤクルトの指名を受けた。テレビ中継で名前が呼ばれた2人は、一段上のステージでのさらなる飛躍を誓った。

【1ページに本記】

巨人の1位指名を受けた堀田。野球を始めた頃から夢だったプロ入りの切符を、最高の形で手にした。岩手県花巻市から青森山田高に進学し、白球を追っ



ヤクルトから6位指名を受け、両親と共に笑顔を浮かべる武岡龍世（右）、八学光星高

てきた。座右の銘は「日々成長」。2年秋の県大会準決勝・八学光星戦で、エースナンバーを背負って臨んだ堀田は17失点、チームは屈辱のワールド負けを喫した。これが転機だった。

「逃げずに向き合おう」。冬の間、食事の量を増やすなどして体づくりに励んだ。自ら情報収集し、試行錯誤しながら練習。「光星に負けたことが、成長につながった」と振り返る。今春はライバルにリベンジを果たした。運命の日、「ここにきて良かった」と晴れやかに語った。今後へ「なつたことのない日本代表にも選ばれたい。またまた成長できる」と頼もしかった。

チームメイトも名前が呼ばれると大歓声で祝福した。同郷の川原田純平内野手（2年）は「エースとして引張ってくれた。自分としてのようにつれたい」と喜んだ。兜森崇朗監督は「とても真面目で堅実な選手。将来、もっと花開くはず」と期待を寄せた。

一方、武岡は3年生の間や父母らと共に、校内の1室で指名を待った。なかなか訪れないその瞬間だったが、午後6時50分ごろ、6巡目で指名されると、安堵からか涙がこぼれた。「みんなが支えてくれてこまで来られた。ありがとう」と笑顔に変わった。

中学時代から世界大会代表に選出されるなど才能にあふれつつ、野球も勉強もひた向きに取り組む生真面目な性格。1年からはベンチ入りし、2年秋からは主将として3季連続で甲子園出場の際の原動力となった。

指名後に主将の涙を見た同級生は「頑張れよ」「期待してるぞ」と激励。副主将だった下山昂大選手は「今春の県大会で負けたときも『甲子園に行こう』と努力家だから、プロでも頑張ってくれはすぞ」とエール。仲井宗基監督は「ここからは厳しい勝負の世界。泣いている場合じゃないぞ」と活を入れたい。

（里村静、林泰輔）